

第 34 回バイオマスタウン構想の公表

【新規公表：12 構想の概要】

北海道斜里町（しゃりちょう）

家庭から排出される生ごみを堆肥化、可燃ごみを燃料化し、それぞれ利用する。製造された堆肥は、地元農家で利用し、可燃ごみから製造された燃料は、地元ホテルの給湯用ボイラー用燃料として利用する計画。

北海道小清水町（こしみずちょう）

馬れいしょの主産地である小清水町では、馬れいしょ澱粉を製造する際に工場から排出される澱粉排液及び澱粉粕の液肥化によるほ場還元や飼料化による家畜への利活用を図り、無駄の出ない資源循環型農業の確立を目指す。

福島県南会津町（みなみあいづまち）

南会津町は豊富な森林資源の利活用を基本として、廃棄物系バイオマスと未利用系バイオマスを複合的に利活用することによる、地域資源の循環有効利用や環境対策、新たな産業の形成、地域社会の再生を行い、「ありがとうのひろがる新しいまち」～次世代へ誇れるまちづくり～を進める。

富山県高岡市（たかおかし）

家畜排せつ物、もみがら及び野菜残渣を活用した良質な堆肥づくり、廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料製造、生ごみ、刈草芝、下水汚泥を活用したメタン化・堆肥化の3つの柱を基本に地域バイオマスの利活用を推進する。

富山県朝日町（あさひまち）

食品廃棄物や家畜排せつ物などを使った良質な堆肥を作りその利活用を推進すると共に、下水汚泥と食品廃棄物でメタン発酵を行いメタンガスによるエネルギー利用や廃食用油の燃料化の検討を行い地域の活性化を図る。

兵庫県たつの市（たつのし）

ごみの減量化及び再資源化並びに資源循環型社会の構築のため、地域住民や地元企業と協働して、主に家庭や企業から排出される食品資源や下水汚泥、家畜排せつ物、農産資源等のバイオマスの効率的な利活用を体系化し、将来にわたって継続可能なバイオマスタウンの構築を目指す。

福岡県赤村（あかむら）

基幹産業である農林業の振興を目的に、耕種農家と畜産農家との連携により家畜排せつ物や稲わら・もみ殻などの堆肥化や間伐材や竹の燃料利用及びマテリアル化、廃食用油のBDF化などバイオマス変換施設とそれらと連携するシステムを構築し、農林業資源の循環利用に取り組み、「循環型社会の構築」を目指す。

長崎県佐世保市（させぼし）

産学官連携により民間主導のバイオマス利活用を促進し、農商工連携促進のテーマとして普及、啓発を図る。佐世保市の地域農林水産物の特色であるカキ殻をバイオマスプラスチック原料に、みかんの残さから機能性成分の抽出など、新規事業の創出を目指し、併せて観光施設や小売業等の食品残さや廃食油など、都市部から発生するバイオマスの利活用も推進する。

鹿児島県始良町（あいらちょう）

始良町では、賦存量の多いバイオマスのうち利用可能量の多いし尿・浄化槽汚泥をメタン発酵によって電気や熱、液肥として利用、林地残材や竹材を飼料化やチップ・ペレット化のほか、バイオマスプラスチックなどへマテリアル変換し、地域内循環を基本とした利活用を展開する。

鹿児島県錦江町（きんこうちょう）

錦江町の基幹産業である畜産業から発生する牛ふんの堆肥化や豚ふん尿・生ごみからのメタン発酵によるガス化、液肥の利活用により循環型農業を推進し、林地残材をペレット燃料として地域内利用や耕作放棄地での資源作物栽培に取り組む。

鹿児島県宇検村（うけんそん）

宇検村内に存在する焼酎粕やチップ工場残材、家畜排せつ物などの様々なバイオマス資源を堆肥化、肥料化、飼料化、機能性食品への利用に取り組み、更にゴミの減量化を進め資源循環型社会の構築を目指しながら産業の活性化を図る。

沖縄県与那国町（よなぐにちょう）

与那国町では家畜排せつ物、バガス等の製糖副産物、生ゴミ、泡盛粕などを堆肥化とメタン発酵によって活用し、さらに菜の花、ひまわり、ヤトロファなどの資源作物を栽培しBDF化する。与那国島にあるバイオマス資源を利活用することにより、島内の環境や自然を保全し、循環型社会の構築をめざす。

【改訂：2 構想の概要】

北海道白老町（しらおいちょう）

産学官の緊密な連携のもと、白老町内から発生する廃棄物系バイオマスを活用するシステムを構築することにより、循環型・環境負荷低減型の地域社会形成を図りながら、地域の基幹産業の振興を軸とした経済の継続的な活性化を目指す。

石川県加賀市（かがし）

加賀市におけるバイオマスタウン形成においては、生ごみ、下水汚泥、剪定枝等のバイオマス資源を有効に利活用して地域の振興に寄与することを第一の目標とする。さらに、廃食用油、木質系資源等を活用したシステム作りを検討するとともに、今後新しいバイオマスの利活用方法の開発を目指す。